JAFRA NEWS
公益社団法人 日本鉄道広告協会 会報
Japan Association for Rail Advertising

2月号
Vol.52
2019年2月1日発行

発行所：公益社団法人 日本鉄道広告協会
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階
TEL：03-5791-1808　FAX：03-3443-1616　メールアドレス：information@j-jafra.jp
URL：http://j-jafra.jp/

巻頭レポート

広告貸切列車を活用したコラボレーション企画の実施について

京浜急行電鉄株式会社
鉄道本部　運輸営業部　営業企画課長
伊藤　和彦

京浜急行電鉄株式会社では、広告貸切列車の販売を軸として、他社とのコラボレーション企画をグループ一体で実施することで、広告媒体価値の向上を目指すとともに、京急沿線の旅客誘致を促進しています。今回は、過去に実施したコラボレーション企画をご紹介します。

「リラックマ」とのコラボレーション

人気キャラクター「リラックマ」とのコラボレーション企画、第1弾を2016年8月～9月、第2弾を2018年の3月～5月と2回行いました。クライアントに、通常販売している広告貸切列車（車内の各媒体を購入することで車体外側にも広告を掲出できる商品）をお買い上げいただくことと併せて、クライアントとの共同施策として、駅構内への巨大バルーンの設置や通常販売していない駅名看板の装飾などを行いました。また、京急グループのバス、百貨店、マリーナ、駅構内の立ち食いそば屋、スイーツ販売店舗などともコラボレーション企画を実施しました。京急線全域で展開することで、クライアントに対しては、お買い上げいただいた媒体価格を上回るような価値を提供できるとともに、電車や駅をご利用されるお客様に対しても、京急線全域のあらゆるシーンに「リラックマ」が登場するという新鮮さや楽しみを提供することができ、大変好評をいただきました。老若男女問わず人気の高い「リラックマ」とのコラボレーション企

車体ラッピング広告

画を実施することで、普段から京急線をご利用いただいているお客様からは「毎日の通勤の癒しになる」というお声や「これを機会にリラックマファンになった」というお声を多くいただきました。また、これまで京急や京急線になじみのなかった全国の「リラックマ」ファンの方を中心に、京急を知っていただき沿線にお越しいただく大変貴重な機会となりました。

駅名看板の装飾で「京急久里浜駅」が「京急リラック久里浜駅」に

実際に、期間中実施したスタンプラリーや貸切イベント列車は、京急沿線以外のエリアからの参加者が約60％を占めるなど、全国から多くのお客様にご参加いただきました。この企画はクライアントと当社双方にとって、新たなお客様の開拓につながり、大変意義のあるものになったと考えております。

駅構内への巨大バルーン設置

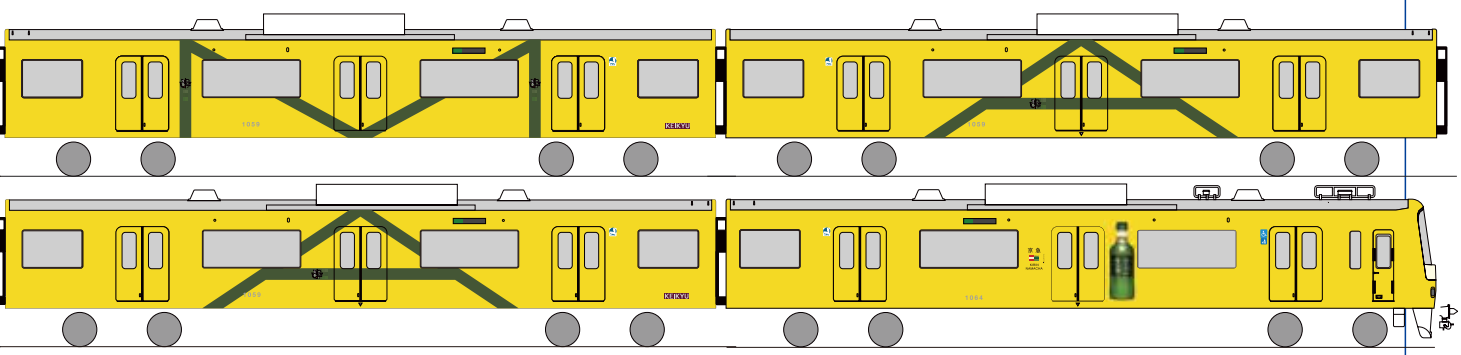
「北斗の拳」とのコラボレーション

２０１８年７月～９月には、『北斗の拳』35周年と、京急電鉄の創立１２０周年を記念して、「北斗京急周年のキャンペーン」を実施しました。京急線の「京急蒲田駅」の駅名看板を、主人公のケンシロウが繰り出す必殺技にちなみ「京急かぁまたたたたーっ駅」に装飾したり、貸切イベント列車「ザコと行く三浦海岸！京急ヒャッハートレイン」を運行いたしました。また京急グループの百貨店で「ひでぶまん」

「生茶」とのコラボレーション

２０１８年11月～12月には、飲料メーカーのキリンビバレッジとのコラボレーション企画「ＫＥＩＫＹＵ×ＫＩＲＩＮ キリン生茶を買って旅に出よう！キャンペーン」を実施しました。キリンビバレッジ、キリンビール横浜工場、駅ナカ事業を行う京急ステーションコマースと当社の４社合同企画として実施し、シールラリーやオリジナルグッズの販売などを行いました。ラッピング電車の運行のほか、期間限定でキリンビール横浜工場の最寄り駅でもある京急線の「生麦駅」にキリン「生茶」

「生茶」デザインの駅名看板になった「生麦駅」



や「北斗七星天丼」など『北斗の拳』をイメージしたオリジナルメニューを販売するなど、インパクトのある施策を行い、話題性の創出を図りました。このキャンペーンは、テレビや新聞など多くのメディアで取り上げていただき、また、ＳＮＳなどを通じて発信していただく個人のお客様も多かったため、京急沿線だけでなく、沿線外のお客様にも広く拡散されることとなりました。クライアントからも、35周年という節目を迎え様々な企業とのタイアップ企画を行った中で、最も反響が大きかったというありがたいお声をいただきました。

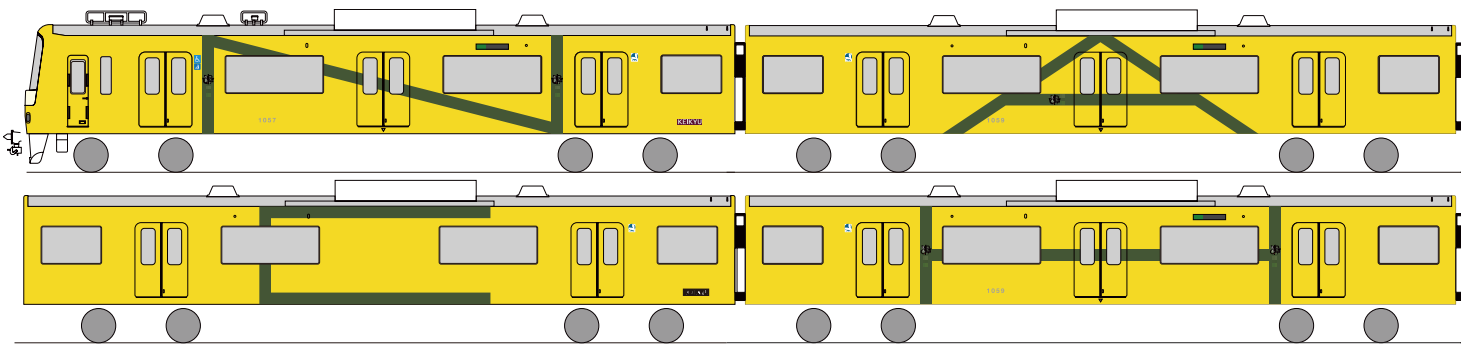
「ザコと行く三浦海岸！京急ヒャッハートレイン」

「京急蒲田駅」は「京急かぁまたたたたーっ駅」に

デザインの駅名看板を新設したり、キャンペーン装飾を駅全体に行ったりすることで、キャンペーンの盛り上げを図りました。

ここまで、直近の事例3件を紹介しました。生活の身近なところにあり、あらゆる年代のお客様と接点が多い電車や駅は、日常生活に溶け込みながら、物珍しさや目新しさを与えることのできる場所だと考えております。少しの変化が、お客様にとっては大きなインパクトを与えることになるため、今後もこのような点を活用しながら、クライアントにとって、より高い媒体価値を提供するとともに、お客様にお楽しみいただけるような様々な取り組みを行っていきたいと考えております。ＳＮＳなどを通じて個人で情報を発信する機会が増え、新鮮味や面白みを感じていただける企画では、ラッピング電車などの広告物自体が自然と拡散されるという場面も多く見受けられるため、話題性を創出することで、京急線にお越しいただく機会につなげ、沿線の活性化および旅客誘致の促進を図ってまいりたいと考えております。

ＪＡＦＲＡ会員の皆さまには、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



NAMACHAと書かれたラッピング電車

広場

「世界に誇る日本の駅弁文化」

理事　表　輝幸（東日本旅客鉄道株式会社）

列車の旅の楽しみの一つと言われる「駅弁」。これをイギリスでも売ってみようということで２０１８年10月、ロンドンで初めて駅弁を販売した。値段は日本の５割増しと少し高めだったが、何と発売開始から２時間で予定の２００個を完売！幕の内弁当は、僅か１時間で売切れるほどの人気を博した。さらに10月末には、パリリヨン駅で駅弁売店も開業させた。

20年前、私は駅弁会社の社長を務めていたことがある。当時、駅弁売上は毎年１割近く下がり続けていて、お客様からクレームを頂くことも多く、会社も駅弁もこのまま消えてしまうのではと強い危機感を抱いていた。日本最大のコンビニ会社社長にお会いした際、「我々はライバルに勝つために血みどろの努力をしている」とビジネスの厳しさを教えて頂き、我々もコンビニ弁当に負けじと味の改善などを徹底して行い、様々な工夫をして低価格の駅弁開発に取り組んだ。駅弁の中身が見えた方が良いだろうとフタを透明にして売り出したこともあった。しかし、これは全く売れなかった。この失敗から私は駅弁とは何かを学んだ。お客様は旅に出る時、コンビニ弁当を買いたいわけではないということだ。お客様から、〝駅弁には３つの楽しみがある〟と教えられた。一つは、食べる前のフタを開ける楽しみ。二つ目は食べる楽しみ、最後は旅の思い出としての楽しみだ。我々は、透明なフタによりその駅弁の非日常の楽しみを奪っていたのだ。この失敗を通じ、駅弁は日本独特の食文化なのだと気付かされた。そして、それ以降、駅弁ならではの楽しみをもっと味わえる駅弁開発に力を入れることとした。今でも東京駅限定駅弁として販売しているが、東京の老舗の食材を一堂に集めた東京弁当もそのとき開発した駅弁の一つだ。その他季節毎、お品書き付などの付加価値駅弁をいろいろ開発し、結果として駅弁売上は右肩上がりに増え、会社業績もＶ字回復した。また、駅弁工場を視察する海外のお客様が、駅弁に魅了され日本の箱庭文化に通ずると評していたことから、駅弁は世界に誇れる日本の素晴らしい文化なのだと再認識し、将来は海外でも日本の駅弁を販売してみたいと思っていたことを思い出す。

ロンドンで駅弁販売

そして、駅弁が宇都宮で初めて販売されてから１３０年後、パリリヨン駅で駅弁が臨時販売されることとなった。予想以上にフランス人に好評を博したため、２０１８年10月末、パリリヨン駅で老舗駅弁会社５社による駅弁売店を開業した。購入したフランス人は「コンパクトで美味しくバランスが良い」、「掛け紙が美しい」、「日本の新幹線に乗っている気分で楽しい」など、日本独自の文化としての駅弁に興味津々で、予定数を毎日完売するほどの人気を誇っている。最近では、台湾から日本駅弁ツアーなるものがあるほどだ。まさに駅弁が世界のお客様に評価され楽しんで頂ける時代となり、私も感無量である。今後も、この駅弁文化に磨きをかけ、世界に誇る日本文化として次代にしっかり継承していきたいと思う。

次回の広場もお楽しみに。

2018年度第2回理事会を開催しました

12月5日（水）、㈱ジェイアール東日本企画10F大会議室において、21名の理事が出席し開催した。

今木会長の挨拶に続き、審議が行われた。審議内容は、次の通り。

第1号議案
新規会員の入会承認

次の2社から入会希望があり、提出された会社概要等について審査したところ、問題がないため、2018年12月5日付で入会を承認したいと加藤専務理事より説明があり、本議案は説明通り承認された。

社名：新京成電鉄㈱
会員種別：正会員（首都圏支部）
代表者：眞下　幸人
所在地：千葉県鎌ヶ谷市

社名：新京成フロンティア企画㈱
会員種別：正会員（首都圏支部）
代表者：鎌倉　伸一
所在地：千葉県松戸市

（敬称略）

これにより、2018年12月5日現在、正会員294社、賛助会員28社　計322社となった。

報告事項
①第12回「地球温暖化防止キャンペーン」実施報告

1．キャンペーンのねらい

環境に優しい交通機関である鉄道に活動の基盤を置く公益法人として「地球温暖化防止」という公共性、社会性の高いテーマの鉄道広告キャンペーンを継続して実施することで、

(1)鉄道広告の持つ高い視認性とネットワーク力を活かして、環境問題に対する社会的警鐘を鳴らし、より豊かな社会の実現に寄与する。

(2)全国の鉄道会社が行っている環境保全へ向けての積極的な取組みを支援し、「CO_2排出量の少ない社会の実現に寄与すること」を目的とした。

2．キャンペーンの概要

主要鉄道路線の車内中づり広告、ターミナル駅およびその周辺駅の駅貼りポスター、駅デジタルサイネージメディア等の鉄道広告をネットワークし、空き枠の活用などにより、できる限り集中掲出に努めた。

本キャンペーンのスタート時は、ゴールデンウィークを中心に実施しましたが、猛暑により地球温暖化防止の気運が高まる・各媒体社の空き枠対策に貢献できる、などの理由により、第3回キャンペーンから8月に実施し、今回の第12回キャンペーンも8月に実施した。

(1)実施期間：2018年8月1日（水）～8月31日（金）

(2)展開規模：全国主要の鉄道駅および鉄道車両に延べ枚数約50万枚のポ

今木会長挨拶

本日は、師走に入っての大変お忙しい中をお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また平素は当協会の運営に関しまして色々な面でご協力を賜っておりますことを重ねて御礼申し上げます。

今年は、世界的にもそうですが、特に我が国においては、非常な猛暑、大雨、台風、地震という異常気象や自然災害が頻発し、各地で大きな被害が生じました。一方、政治経済に目を向けますと、貿易戦争や、地政学的リスクの問題も重なり大きく揺れ動いた年であったと思います。我が国の景気も基本的には順調に推移したと言われておりますが、決して順風満帆ではなかったと思います。広告業界全体もそうだったのかもしれませんが、私共交通広告を取り巻く環境には大変厳しいものがありました。問題はこれからどうなるのかということですが、色々な状況から想定しますと、来年も決して安心できる年ではなく、むしろ乱気流の中につっこんでしまう不測の事態も起こるかもしれません。そんな時には会員社の皆さま共々しっかりとシートベルトを締めて対応していく必要があると思います。

本日の理事会は、新たに2社から入会申し込みをいただいております、この承認と、本年度の事業計画の進捗状況の中間報告というのが主なテーマでございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

挨拶する今木会長

スターを集中的に一斉に掲出
①展開エリア：札幌、仙台、首都圏、名古屋、京阪神、高松、広島、福岡の各都市圏を拠点とした全国各地
②対象路線：ＪＲ６社、大手民鉄16社、地下鉄他14社　計36社局
(3)ポスター種類：
駅貼りポスター（Ｂ0及びＢ1サイズ）
車内中づりポスター（Ｂ3サイズ）
駅デジタルサイネージメディア
(4)協賛：一般財団法人日本宝くじ協会
(5)後援：環境省、国土交通省

3. キャンペーンコンセプト

第12回目の地球温暖化防止キャンペーンを実施するにあたり、以下のコンセプトに基づいて展開した。

モチーフは引き続き「野生動物」。

地球温暖化の影響を最も受けやすい象徴として「野生動物」があります。

私たち人間は、生産活動によって大量のエネルギーを消費し、地球環境を破壊している加害者であり、野生動物は一方的にその環境変化の影響を受けている極めて弱い立場の被害者ということができます。

森林、大地、海など美しい環境に生きる「野生動物」を描いたアートをモチーフにすることで、鉄道を利用する多くの人々が環境問題について考えるきっかけを今年も1枚のポスターから発信しました。

4. 制作協力

(1)ビジュアル提供：
宮田亮平氏　東京藝術大学名誉教授
「シュプリンゲン」
大津英敏氏　多摩美術大学名誉教授
「なかよし」
手塚雄二氏　東京藝術大学教授
「良気」
日比野克彦氏　東京藝術大学教授
「勝利ノ化身」
(2)アートディレクター：蝦名龍郎氏
(3)コピーライター：
根岸礼子氏　マキプロ
「エキからエコ。」

5. 立体的な展開

夏休みには、家族連れや親子連れの鉄道利用者が増加する。そこで、家族で地球温暖化防止について考えてもらうための材料を提供した。

(1)ＪＡＦＲＡのホームページで各アーティストのプロフィールや作品に寄せるメッセージ、地球環境についての考えなどを紹介し、また、ポスターの一部に印刷されたＱＲコードからも、同様の情報を入手できるようにした。

(2)ＪＡＦＲＡのホームページから各鉄道会社のホームページにリンクを貼ることで、鉄道会社が現在取組んでいる様々な環境保全活動を紹介。

(3)協賛、後援省庁・団体の環境保全活動への取組みサイトへのリンクなどを開設することでインターネットとの連動を図った展開を実施。

(4)エコ、鉄道、アートなどのテーマで夏休みの宿題に取り組む子供たちに役立つ情報を、ホームページ上で提供。

(5)過去の作品をアーカイブとしてホームページ上に掲載。

報告に続き滝委員長より以下の補足説明があった。

美観風致委員会 滝久雄委員長

本日もご出席いただいている大津英敏先生はじめ、宮田亮平文化庁長官、手塚雄二、日比野克彦、両名の東京藝術大学教授から作品を提供いただいています。この4名皆さんが、キャンペーンには是非参加したいとおっしゃってくださって、大変ありがたいことです。大津先生は元々、パリの風景を描かれる先生なのですが、最近ではすっかり「虎の大津英敏」と言われるくらい、芸術性の高いポスターが全国に掲出されることも楽しみにされていますし、説得力のある地球温暖化防止のコピーも浸透しているのではないかと思っています。

滝久雄美観風致委員会委員長

大津英敏理事

キャンペーンポスターを毎年描いています。最初の頃は野生の動物としてキリンや鷹を描いたりしていましたが、関西方面で受けるのではと思って虎を描きましたところ、やはり受けが良かったので、それ以来、スマトラ虎、私の故郷の大牟田動物園にいるホワイトタイガーを描いています。今年は、東武動物公園で双子のホワイトタイガーが生まれたというので、スケッチして描いたものです。私をはじめ4名ともキャンペーンの主旨を理解した上で、多くの方に見ていただくことは画家にとって大変うれしいことです。数年前から9月から12月にかけ全国の小中高校で、芸術の指導をしてほしいという文化庁の依頼を受け、このポスター

大津英敏理事

を利用して、動物のことや、地球温暖化について学校で話をしています。皆さんに大変喜んでいただいているので、私も大変うれしいです。

②「絵で見る安全作業マニュアル」の発行

安全委員会（西崎俊文委員長）では、鉄道広告の安全管理にかかわる資料を収集・整理し、作業の安全と安全に関する意識向上に取り組んでおり、その一環として２０１３年に発行した「絵で見る安全作業マニュアル」を最新の内容に合うように変更し再発行した。

○発行日：２０１８年８月31日
○部数：１５００部
○仕様：Ａ４／４色／52Ｐ
○経費：９６４千円
○制作スケジュール
・２０１８年４月５日（木）
第１回　安全委員会「絵で見る安全作業マニュアル」発行への取組内容の確認
・４月５日～６月30日
安全委員各自で、内容の見直し、追加作業
・７月初旬　入稿
校正作業
・８月31日（金）発行
○活用状況：
・10月１日（月）全会員社（３２０社）に送付

今後は、研修会のテキスト等で活用し、希望の会員社には追加で配布すると加藤専務理事より説明があった。

安全委員会 西崎俊文委員長

５年ぶりの改定ということで、イラストを変更しました。また、新たに、工事作業終了の点検が重要ということで、追加しました。また、カラーコーンの追加、それから、これまでエスカレーターの使用は禁止されていましたが、判断に任せるということにしました。作業現場も年々高齢化して来ていますので、階段を使うことによって、お客様に支障が出てしまったら、逆効果ですので、十分注意して、エスカレーター、エレベーターを使用することにしました。また、高所作業についてですが、全て安全フックを付けているということで、高所作業の危険性を注意するということです。

西崎俊文安全委員会委員長

③「ｅ-販促データシステム」の稼働状況

昨年の第１回理事会（５月30日）以降の「ｅ-販促データシステム」稼働状況等は、前回理事会以降１社が入会し、有料会員数が75社となりました。

アクセス状況

	会員	一般	合計
５月	2,063	36	2,099
６月	2,849	52	2,901
７月	2,064	14	2,078
８月	1,846	32	1,878
９月	1,370	19	1,389
10 月	2,165	4	2,169
11 月	1,760	14	1,774

○システムの改修

会員各社に有効活用していただくことを目的に、操作説明会において実施したアンケート結果及び管理者を中心とした会員アンケート、会員から寄せられた要望を基に、毎月開催している編集会議で来年度のシステム改修の内容を議論し、以下のような改修を予定している。

１．改修内容

・「Station AD Planner」「Train AD Planner」共通項目
①データ集（スペシャルコンテンツ）
既存掲載コンテンツ（全国デジタルサイネージプラン、ネットワーク企画集等）のアップデート検討
②データポリシーの改訂
③ＦＡＱの作成
想定される質問項目をＦＡＱで解説。
・「Station AD Planner」項目
①掲載駅の追加
ＪＲ全駅、一部私鉄の駅追加（延べ約１８００駅）
・「Train AD Planner」項目
①路線図拡大の段階追加
現在３段階⇓５段階
②路線図拡大出力機能追加
路線図を拡大したまま出力できるように変更
③路線図の全国化
四国地区の路線図を追加

２．改修時期

２０１９年４月使用開始予定

３．改修費用（見込）

約80万円（ｅ-販促会員の会費を充当）

*改修期間、費用を現在精査中。次回理事会にて詳細を報告予定している。

栗原委員長より以下の補足説明があった。

調査研究委員会 栗原圭一委員長

このシステムを作ってから2019年2月に丸5年経ちますので、減価償却が満了で来年からは費用が下がるということをご報告いたします。

栗原圭一調査研究委員会委員長

④アカウンタビリティ向上の進捗状況

昨年の第1回理事会（5月30日）以降のアカウンタビリティ向上について進捗状況を報告します。

1. 交通広告共通指標推定システム会員社数に変化はなく、全49社

2. 交通広告共通指標推定システムアクセス数の推移

アクセス数

5月	135
6月	58
7月	65
8月	69
9月	51
10月	61
11月	63

3. 交通広告共通指標策定車両メディア調査概要

・調査期間：2018年3月～6月
11社局4グループ、3日間
・調査対象：1都3県に居住する15歳から59歳で対象路線を利用した者
・サンプル数：9900（各線300サンプル×3日間）

ユニット別調査素材数 2018年度

ユニット名	調査素材数	累計
中づり（一般）	46	312
中づり（出版）	4	72
まど上	44	365
ドア横	23	201
ステッカー	35	220
ツインステッカー	11	87
ビジョン	34	204
合計	197	1,461

4. 交通広告共通指標化車両メディア対象ユニット

(1)既存6パターン「中づり（一般）」「中づり（出版）」「まど上」「ドア横」「ステッカー」「ビジョン」について、2014年調査から5年分の素材を使って共通指標の更新。
(2)素材数合計が1400を超えたため、昨年の「ステッカー」に続き、「ドア横」・「ビジョン」でも業種の細分化を検討。
(3)説明変数の見直し。
掲出期間やビジョンの15秒／30秒などの細分化を検討。

5. 駅メディア調査

・調査対象ユニット：駅ポスター、駅デジタルサイネージ、サインボード、フラッグ、柱巻き
・調査期間：2018年8月～10月
11社局ごと、特定の1日
・調査対象：1都3県に居住する15歳から59歳で対象駅スポットを通過した者
・サンプル数：各社局1駅スポット、100サンプル以上
・調査対象素材条件：業務用広告以外で、調査対象当日までの掲出期間が3週間以内の素材に限る。
現在、調査集計中。
結果については、次回第3回理事会にて報告の予定。

6. プレスリリース

(1)時期：2019年3月下旬を予定
(2)内容（案）：
・「中づり（一般）」「中づり（出版）」「まど上」「ドア横」「ステッカー」「ビジョン」共通指標の更新
・車両、駅メディア調査の結果から得られる知見。
内容はプロジェクト内で検討中。

大塚委員長より以下の説明があった。

アカウンタビリティ向上委員会 大塚尚司委員長

駅メディア調査ですが、3年経ちサンプルが130ほどたまり傾向が分かるようになったということで、12月11日（火）のプロジェクトの委員会でも詳細が発表になるということです。期間が長ければ長いほど、媒体が大きければ大きいほどちゃんと効果が出るということがしっかり出て来たということを聞いています。

大塚尚司アカウンタビリティ向上委員会委員長

⑤支部の活動状況

2018年6月26日、定期総会以降の主な活動状況は以下のとおり。

(1)北海道支部

・7月26日（木）交通広告研修会
会場：ANAクラウンプラザホテル札幌

演題：「リアルとデジタルで注目を集める最新の交通広告事例の解説」
講師：㈱オリコム　メディア推進室　シニアディレクター　吉田 勝広氏
参加者：14社33名
・10月16日（火）～18日（木）
媒体視察研修
研修場所：広島、松山、高松
研修内容：「広島、松山、高松の交通広告について」
広島駅ではＪＲ西日本コミュニケーションズより情報提供
参加者：7社10名
・8月　第12回地球温暖化防止キャンペーン（以下各支部共通）

⑵東北支部

・12月10日（月）支部総会・セミナー・懇親会（開催予定）
会場：ホテルメトロポリタン仙台
セミナー
演題：「事例に見るＯＯＨならではのアプローチ」
講師：ジェイアール東日本企画　ＯＯＨメディア局 次長　五島 剛氏

⑶首都圏支部

・7月9日（月）支部総会・幹事会・セミナー・懇親会
会場：ホテルメトロポリタン池袋
支部総会
出席者：50社54名
セミナー
演題：「オープンハウスのビジネスモデルと広告戦略」
講師：株式会社オープンハウス　企画本部 企画部次長　山田 佳明氏
参加者：97名

⑷中部支部

・7月30日（月）支部総会・セミナー
会場：ＪＲゲートタワーカンファレンス（ＪＲゲートタワー）
支部総会
出席者：24社29名（委任状9社）
セミナー
演題：「３つのトレンドから読み解く、正しいProgrammatic　ＯＯＨ時代の迎え方」
講師：㈱電通　アウト・オブ・ホーム・メディア局 スマートビジネス推進室　テック＆データインテリジェンス部長　神内 一郎氏
参加者：24社44名、学生17名　計61名
・10月～2月　交通広告インターン・調査研究事業
「交通広告インターンシップ２０１８」
会員社：5社12名
参加大学：愛知大学、愛知県立芸術大学、金城学院大学、名古屋芸術大学、名古屋市立大学、名古屋造形大学、南山大学、東京女子大学、広島経済大学　計52名
協賛広告主：ポッカサッポロフード＆ビバレッジ㈱、東邦ガス㈱
スケジュール：
10月13日（土）
オリエンテーション
講義「交通広告概論」、「クリエイティブ」、「デジタルサイネージ」
協賛広告主オリエンテーション
10月27日（土）
講義「交通広告展開事例」、「交通広告営業」
12月1日（土）
広告制作プレゼンテーション
2月　選ばれたチームの広告を「名古屋エクスプレスビジョン」で放映（予定）

⑸近畿・中国・北陸支部

・7月10日（火）支部総会・幹事会・セミナー
会場：ホテルグランヴィア大阪
支部総会
出席者：40社44名
セミナー
演題：「過去から未来への１００年関西を考える」
～１９７０大阪万博で見た夢と２０２５年未来ビジネスへの期待～
講師：近畿経済産業局　産業部 次長　石原 康行氏
参加者：43社86名
・9月19日（水）交通広告実務研修
会場：㈱ＪＲ西日本コミュニケーションズ
研修内容：
①「交通広告の現状と最新トレンド」～事例紹介をまじえ～
講師：㈱ＪＲ西日本コミュニケーションズ　企画総務部 担当部長　土屋 樹一氏
②「ＯＯＨプランニングにおける新たな取り組み」～海外の事例と日本でできること～
講師：㈱電通　アウト・オブ・ホーム・メディア局 スマートビジネス推進室　テック＆データインテリジェンス部　現王園（げんのうその） 章太（しょうた）氏
参加者：36社94名

⑹四国支部

・9月11日（火）第2回役員会
会場：㈱ジェイアール四国企画　会議室
出席者：7社7名
・11月8日（木）～9日（金）視察研修会
研修場所：博多駅・鹿児島中央駅「交通広告媒体等」の視察及び商業施設における広告掲出状況等視察
参加者：8社10名参加（詳細はP11に）

⑺九州支部

・8月9日（木）支部総会・セミナー・懇親会
会場：ＪＲ博多シティ大会議室
支部総会
出席者：23社37名
セミナー
演題：首都圏における「交通広告共

通指標」のご紹介
講師：ＪＡＦＲＡアカウンタビリティ向上委員会 幹事　白土 栄次氏
参加者：26社54名
懇親会
参加者：26社56名
・11月８日（木）ＪＡＦＲＡ四国支部 博多駅視察研修対応
・２０１９年３月予定　支部運営会議の開催

続いて、出席した３名の支部長より以下の発言があった。

首都圏支部 原口宰支部長

セミナーは開催していますが、研修はこれから２月４日に開催いたします。その他も鋭意努めてまいります。

原口宰首都圏支部長

中部支部 阿久津光志支部長

中部支部独自の活動として、交通広告インターンシップを続けて来ていますが、今年は参加する大学、学生の数が昨年よりも増えています。名古屋駅の駅前、コンコース含め数年前から大きく変わってきておりますのでそういうところに学生の目も向いていると思いますし、様々な活動に興味を持っていただいているということだと思います。今年は東邦ガスというインフラを運営する会社にも協賛いただき、ポッカサッポロフード&ビバレッジには引き続き協賛いただきスケジュールに則った形で進行しております。既に広告制作のプレゼンテーションが行われ２０１９年２月には名古屋駅の新幹線口にあります「名古屋エクスプレスビジョン」で放映するスケジュールに沿って進行しております。我々がここでアピールすると同時に、学生諸君にも広告業界、広告会社に対する関心も高まってくれるのではないかと期待しています。

阿久津光志中部支部長

四国支部 山西弘泰支部長

11月８・９日に博多駅・鹿児島中央駅の視察をいたしました。博多駅に新たに設置された、大型有機ＥＬ曲面型デジタルサイネージ「FINE-VISION JI」を視察して、４年で投資額を回収でき、クライアントも非常に多いというお話をうかがい大変うらやましく思いました。ぜひ四国の玄関口である高松駅にも大型ビジョンを設置したいなと考えておりますので、また皆さまのアドバイスをよろしくお願いいたします。

山西弘泰四国支部長

以上をもって今木議長は、16時20分「２０１８年度 第２回理事会」の閉会を宣言し議事が終了した。

今後のスケジュール

〈年賀会・理事会・総会〉
○２０１９年１月８日（火）
15時30分～17時
平成31年「広告界合同年賀会」
会場：帝国ホテル本館２階「孔雀の間」
共催団体：広告関連29団体
○３月７日（木）15時～
２０１８年度第３回理事会
会場：㈱ジェイアール東日本企画
10階大会議室
・２０１９年度事業計画（案）
・２０１８年度収支決算（見込）及び２０１９年度予算（案）
○５月下旬
２０１９年度「第１回理事会」
会場：㈱ジェイアール東日本企画
10階大会議室
○６月25日（火）
２０１９年度定期総会　14時～
セミナー　16時～
懇親会　17時30分～
会場：ホテルメトロポリタン（池袋）

〈委員会〉
●技術開発委員会　情報交換会
２月中旬
会場：ジェイアール東日本企画会議室
●第３回総務・財務委員会
３月上旬
会場：ジェイアール東日本企画会議室

以上

●支部便り●

四国支部

研修会を実施しました

四国支部（山西弘泰支部長）では、去る11月に研修会として、ＪＲ九州の広告媒体視察を実施しました。これは、２０１８年４月に、博多駅のコンコースに導入された、国内初で国内最大の大型有機ＥＬ曲面型デジタルサイネージ（「FINE-VISION J!」）及び駅構内の交通広告媒体、並びに、鹿児島中央駅と駅に直結した商業施設（アミュプラザ）の広告媒体設置状況等の視察を行いました。特に55インチパネルを36面配した「FINE-VISION J!」は、大変迫力がありアイキャッチも抜群です。その他にも、参考になった媒体設置が多々あり、大変有意義な研修会となりました。

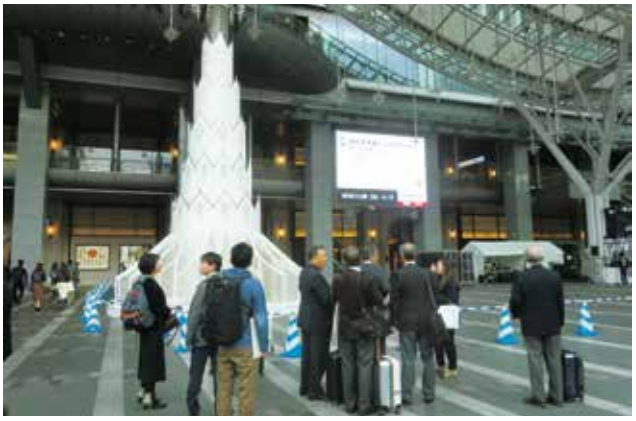
この場をお借りして、ご案内、ご説明くださいましたＪＲ九州エージェンシーの皆さまに心からお礼を申し上げます。

また四国では、昨年７月豪雨による被災地支援もしております。この春はぜひ皆様も四国へ足をお運びください。お待ちしております。

日時：２０１８年11月８日（木）～９日（金）
場所：博多駅及び鹿児島中央駅
目的：「交通広告媒体」（博多駅・鹿児島中央駅）
「広告媒体」（商業施設　鹿児島中央駅アミュプラザ）
の視察
参加者：支部会員８社10名

博多駅の有機EL曲面型デジタルサイネージ（「FINE-VISION J!」）

FINE-VISION J! とセットで出稿のメインコンコース64面サイネージ


博多駅の大型ビジョン「JR博多シティビジョン」

鹿児島中央駅構内の広告媒体

鹿児島中央駅の大型ビジョン「鹿児島AMU VISION」

合同年賀会を開催しました

1月8日（火）、広告関係29団体共催による「広告界合同年賀会」が、東京都千代田区の帝国ホテル「孔雀の間」で開かれ、昨年よりも多く業界関係者ら約1780人の参加がありました。

全日本広告連盟大平明理事長、日本新聞協会白石興二郎会長、日本民間放送連盟井上弘会長、日本雑誌協会鹿谷史明理事長、日本雑誌広告協会堀内丸恵理事長、日本屋外広告業団体連合会冨田栄次会長、日本広告業協会成田純治理事長、日本アドバタイザーズ協会伊藤雅俊理事長の8名が登壇し、鏡開きが華やかに行われました。

鏡開き

続いて、共催者を代表し全日本広告連盟大平明理事長が「今年の干支は己亥（つちのとい）です。この己という文字には絡んだ糸をより戻して再び使えるようにする、新しく出直すという意味があります。己の右に攵（ぼく）という文字を加えると〝改〟、今年は改元の年、新しい時代の始まりの年でもあります。また、亥とは、骨格を意味する文字であり、土台を意味しています。木偏を付けると〝核〟という字になり、種子の種を表して、大いなるエネルギーが詰まっていること意味しています。大きなエネルギーで登場する新しい時代を受け止め、適応し、切り開くには、体力、知力、気力が必要になります。皆さんは運動をしていますか？新しい時代に取り残されることのないよう、体力をつけ、荒波を乗り切って、更に元気な広告界にしましょう。」とあいさつし、新たな時代への出陣の鬨の声をあげましょう、エイエイオウの掛け声とともに乾杯が行われました。

勝鬨を揚げる全日本広告連盟大平明理事長

今年も江戸囃子「鼓太郎」が場内を明るく盛り上げ、出席された皆さまは新春の挨拶を交わされていました。

そして、来年の年賀会も2020年1月8日（水）同会場での開催が決定しております。大変気の早いお知らせですが、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

●会員社の代表者が
変更になった場合など、
変更届はホームページ
（http://j-jafra.jp）
の「各種届出書類」に
用意してございますので、ご記入
の上、事務局宛にお送り下さい。
ご協力お願いします。

編集後記

2019年も既に1か月が終了しました。
海外から帰国する時、いつまでたっても搭乗案内がなく、周囲に日本人は誰もいません。
いつの間にかゲートが変更され、羽田行ではなく、ムンバイ（インド）行きになっており、久々に猛ダッシュをしました。
今年も周りをよく観察し、気を引き締めて、生活をしたいと思います。

みなさまの春のお勧めの旅行先教えてください。

●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。
information@j-jafra.jp

●次号Vol.53は4月1日発行予定です。お楽しみに。